

福島県のヤマセ常襲地帯における夏どりレタス・ダイコンの作型と品種

逸見 俊五・北原 洋*・須田 十三男・阿部 昇**

(福島県農業試験場いわき支場・*福島県農業試験場
こんにゃく試験地・**福島県双葉農業改良普及所)

The Type of Cultivation and Varieties of Lettuce for Summer Crop and Radish
in the Easterly Winds "Yamase" District in Fukushima Prefecture

Shungo HENMI, Hiroshi KITAHARA*, Tomio SUDA and Shoichi ABE**

(Iwaki Branch, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station・*Konjac
Section, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station・
**Futaba Agricultural Extension Service Station)

1 は し が き

福島県の太平洋沿岸の東側地域では、5～8月にかけて北東～南東風のヤマセ気象の影響をうけ、夏秋期の露地野菜の生産が不安定である。本試験では、レタス、ダイコンを供試し、当地域に適する作型開発と品種の選定及び栽培法の改善によるダイコンの抽台防止等について、昭和57～59年の3か年にわたり検討した。

2 試 験 方 法

(1) レタス

1)供試品種

作型開発 トップマーク・マイレタス・一部にGL
366MT・オリンピア

品種比較

(結球) オーガスタ・アルペン・サンレタス・トッ
プマーク・マイレタス・サマーオンワード
(リーフ) グランドラビット・アーリープライス
ヘッド・四季紅ちりめん・レッドファイアー・レッ
ドエース

2)供試場所

作型開発 いわき支場(標高3m)、いわき市三和
町差塩(標高400m)、相馬郡飯舘村(標高450
m)の3か所

品種比較 いわき支場のみ

3)は種期

(昭和57年) 4月6日、5月7日、6月8日、7
月8日

(昭和58・59年) 4月5日、4月25日、5月15日、
6月5日、7月5日

4)育苗・栽植様式

ペーパーポット10号には種、70cm×20cmの2条植え
(9230Bマルチ使用)

5)施肥量

N・P₂O₅・K₂O 各20、堆肥2,000、苦土石
灰120 (kg/10a)

(2) ダイコン

1)供試品種

作型開発 耐病総太り・夏みの早生3号・青みの2号
品種選定 上記3品種のほか春富、夏味、若桜、
栽培法改善 耐病総太り

2)供試場所

作型改善 いわき支場(標高3m)、いわき市三和
町差塩(標高400m) 相馬郡飯舘村(標高450
m)の3か所

品種比較・栽培法改善 いわき支場のみ

3)は種期

作型開発

(昭和57年) 5月18日、6月18日、7月15日

(昭和58・59年) 6月5日、6月15日、6月25
日、7月15日

品種選定

(昭和58年) 5月25日、6月15日、7月6日、

栽培法改善

(昭和59年) 4月25日、5月15日、

4)処理区

栽培法改善 ポリトンネル区、ユーラック区(ホー
リーシート)区、ポリマルチ区

5)施肥量

N—20、P₂O₅・K₂O—18 堆肥—2,000、
苦土石灰—100 (kg/10a)

3 試 験 結 果

(1) レタス

1)作型開発

57年は6月上旬と7月上旬は種は、長雨と台風の影響を
うけて生育が悪く、特に三和の現地は数回のかん水により
調査を中止した。58年の4～5月は高目の気温、6月～7月は
平年より低め、8月中旬以後は高温に経過した。5月～6月播
きは気温の変動や一部で降水量が多かったことなどから、
三和の現地は数回のかん水で調査を中止した。59年は春先
から6月までは低温であったが、7月～9月までは異常高

温と少雨乾燥状態が続いた。特に7月播きは異常高温のため支場・現地とも抽台して結球しなかった。生育日数は年によって異なったが、4月上旬播きは80日前後、4月下旬は75~80日、5~7日播きは60~65日前後で収穫となった。標高400~500mの現地では7~10日生育日数が多くかかった。

表1 は種期別収穫時調査(結球) (昭和58年)

品 種	は 種 期 (月 日)	供試 場所	全 重 (g)	球 重 (g)	球 径 (cm)		収 穫 株 率 (%)	障害株率(%)	
					タ	ヨ		病	不
					テ	コ		害	結(半 球)
ト ッ プ マ ー ク	4・5	支場	1,089	813	14.3	14.0	100	—	0
	"	差塩	1,002	616	17.2	17.8	38	56	6
	"	飯館	980	500	13.1	15.4	99	—	0
	4・25	支場	777	264	13.0	13.6	40	60	0
	5・15	支場	781	246	14.1	13.4	40	60	0
	"	差塩	663	182	14.7	13.2	63	37	0
	"	飯館	570	210	13.4	12.0	50	50	0
	6・6	支場	971	531	13.5	18.4	73	19	7
	"	差塩	大雨で冠水し調査中止						
	"	飯館	403	213	10.2	12.3	40	55	5
ク	7・5	支場	519	184	12.4	12.0	85	13	2
	"	差塩	544	277	13.7	12.5	52	48	0
	"	飯館	503	311	14.8	14.1	100	0	0

注. 1区20株平均値(差塩、飯館試験区は10株平均値)抽台はなかった。

2)品種比較

結球レタスは、トップマーク、マイレタスのほか多収だったのはオーガスタ、サマーオンワード、サクラメントなどであったが、品質的に葉色の濃いことなどを考慮するなら、サクラメントがよかった。リーフレタスは抽台や葉色等からみると、赤ちりめんリーフレタスでは葉色が濃いレッドエース、レッドファイアーが有望であった。

表2 結球レタス収穫時調査(6月5日播き) (昭和59年)

項目 品種名	全重 (g)	球重 (g)	球 径 (cm)		収 穫 株 率 (%)	10a当 り収量 (kg)	障害株 率 (%) 腐 敗
			タテ	ヨコ			
オーガスタ	727	475	10.6	13.0	87.1	2,075	12.9
アルペン	977	421	13.0	16.0	70.5	1,488	29.5
サンレタス	933	495	11.9	14.7	88.6	2,199	11.4
トップマーク	914	477	13.1	13.1	80.7	1,930	19.3
マイレタス	721	395	13.5	12.0	96.7	1,915	3.3
サマーオンワード	787	542	11.6	14.2	77.1	2,096	22.9
サクラメント	860	582	13.0	14.4	77.1	2,250	22.9
サニーボーイ2号	568	412	10.3	12.9	82.0	1,694	18.0

注. 10a当たり株数 5,016株 不結球、抽台はなかった。全重、球重、球径のタテ・ヨコは収穫株の平均(20株)、収穫期間(8/4~8/18)

(2) ダイコン

1)作型開発

57年の5月中旬、6月中旬は種は順調に生育したが、7月中旬は種は台風、多雨の影響で生育は悪かった。58年の

6月上旬播きでは、青みの2号の肥大がよかった。6月中・下旬播きでは、支場(平地)の場合ウイルス病や腐敗株が多発した。しかし、標高の高い現地では55日で全重1,300~1,500gの収穫となった。59年は6月に3回は種したがいずれも50日前後で収穫できた。平地の7月中旬は種はウイルス病が激発して収穫が出来なかった。6月上~下旬のは種では種後50日前後で収穫期となるが、標高400~500mの現地では5~7日生育日数が多かった。青みの2号は一般に生育が早く根重も重かった。夏みの早生3号は高温になると生育はすすむがスが入りやすい傾向がある。

表3 は種期別生育調査(ダイコン・作型) (は種後45日) (昭和58年)

供試 場所	品 種 名	全 重 (g)	根 重 (g)	根 長 (cm)	根 径 (cm)	調 整 重 (g)	収 穫 株 率 (%)	病害の発生(%)	
								ウィ ルス	ナン ブ病
支場	耐病総太り	701	389	30.0	4.8	577	100	—	—
差塩	"	1,488	780	32.3	6.4	965	11	50	39
飯館	"	1,356	693	32.6	6.0	924	28	27	45
支場	夏みの3号	524	308	32.3	4.3	420	80	—	20
差塩	"	1,240	702	33.0	6.2	909	24	50	16
飯館	"	1,453	862	40.1	6.2	1,078	15	40	45
支場	青みの2号	850	543	38.5	5.2	690	100	—	—
差塩	"	1,780	1,076	38.2	6.9	1,358	20	40	40
飯館	"	1,502	943	39.4	6.5	1,152	42	30	28

注. は種期6月15日 ※ 1区10株 平均値

2)品種比較

5月下旬は種は好天に恵まれ、生育は順調であったが、6月中旬、7月上旬は種は低温少日照で生育並びに根部の肥大は劣った。品種は低温期は青みの2号と若桜、後半高温になると夏みの早生3号が有望である。

3)栽培法改善

耐病総太りを用いてトンネル・マルチ栽培すると、最高気温、最高地温とも高くなり生育が促進(早期の抽台は防止出来た。しかし、ポリフィルム、ユーラックフィルムともトンネル栽培は空洞症が多くなり、実用的には透明マルチ処理がよかった。

表4 ダイコン収穫時調査(4月25日は種) (昭和59年)

は種後 日 数 調査日	処 理 区	全重 (g)	根重 (g)	根長 (cm)	根径 (cm)	抽台 指数	空 洞
は種後 55日・ 6月19 日	ポリトンネル区	1,323	693	35.0	6.2	0	6/10
	ユーラック区	1,350	677	31.4	6.3	0	1/10
	透明マルチ区	1,582	848	35.9	6.8	0.2	0/10
	無 処 理 区	—	(抽台開花)	—	—	—	—0
は種後 60日・ 6月24 日	ポリトンネル区	1,572	875	35.9	6.5	0	9/10
	ユーラック区	1,978	1,150	32.1	7.2	0.7	5/10
	透明マルチ区	1,692	944	37.3	6.9	0.7	3/10
	無 処 理 区	—	(抽台開花)	—	—	—	—

注. 抽台指数: 0—なし, 1—5cm未満, 2—5cm以上, 3—開花, 2以上は販売不可。
空洞: 10株中の発症株数 ス入りはなかった。
10株調査の平均値